

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム徳ちゃん
(ユニット名)	すずらん
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市小佐々町矢岳1062-3
記入者名 (管理者)	矢頭 和子
記入日	平成 21 年 2 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	・地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性強化を謳った理念をつくりあげている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	・理念は、ホーム内(玄関・居間)に掲示し、毎日のミーティングで確認し合っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	・運営理念を玄関に掲示し、入居前の説明文書にも明示し、ご家族に説明している。また地域の方には、開所前のホームの説明会、意見交換をし理解してもらい、その後も地域の総会、懇親会、奉仕作業等に出席し、意見を伺っている。ホームだよりを作成し、地域の方に読んでもらっている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	・日常的に散歩や買物などに出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。近隣の方が草花、野菜を持ってきて下さる事が、ふれあう機会が多い。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	・地域の行事で春まつり、敬老会には積極的に参加している。また、小佐々中学校より体験学習にみえ、演芸等して下さった。小佐々小学校から学習発表会、地域の文化祭に招待も受けた。ホームの夏まつりには、100名位の地域の方が参加され、歌、踊り、ゲーム等に参加され楽しく会食をしていただいた。又、今年の2月10日・13日・20日にもボランティアで小学生が来られる予定である。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地域の方より認知症や福祉サービスについての相談を受ける事がある。ホームでの教室開催や研修の受け入れの利用はない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価を職員全員で行い、サービスの質の向上に努めている。また外部評価を受け、ご指導して頂いた事でケアの向上につながった。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議には、家族会、民生委員、町内会長、社会福祉協議会より参加していただき、現況報告や意見交換を行いサービスの向上に活かしている。クリスマス会に参加して頂き、現状をみていただき入居者、家族の方と交流をして頂いた。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・市町村担当者の方とは(行政センター・市役所(保護課))、普段より交流があり、指導いただいている。	○	・市町村担当者の方と懇談会を開く。今後も運営推進会議を継続する。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については、職員全員・家族の方出席し、社会福祉協議会の方より講義をしていただいた。	○	・入居者及び地域の方に今後も勉強会を開き支援に結びつけたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待の実施は皆無だが、防止法対策のマニュアルは勉強している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、利用料金等、十分な説明を行なっている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・入居者の健康状態は、常に家族に連絡している。週1回の面会時は勿論、電話や訪問で報告をしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・定期的に家族会を開催しており、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。また玄関には、御意見箱を設置している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・月1回、ミーティングを行い、意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・利用者の自由な暮らしをできる限り支えられるよう、利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。また、その都度必要に応じて、柔軟に職員の配置を考えている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。職員が代わった場合は、はやく馴染みの関係になれるように配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員の資質の向上を考え、研修、資格取得等、積極的に受講、受験できる支援がなされている。	
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・近隣の同業者の方とは交流があり相互の活動に役立てている。	○ ・佐世保市のグループホーム協議会の方に説明を受け、参加を希望している。
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・職員同士で食事会を行っている。また人間関係を把握したりするよう努めている。	
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・職員の研修、資格取得に向けた支援を行い、職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って身体状態、生活状態を把握し不安に思っておられる事、困っている事をよく聞き、安心感を持ってもらうよう努めている。	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。家族の不安、苦しみ、困られている事を把握する。そして、何を求められているのかを察知し、誠実に話し合うよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・職員が自宅を訪問したり、本人や家族がホームを見学してもらって雰囲気をわかってもらう。地域で昔馴染みの方もあり、早く雰囲気に馴染まれる事ある。職員の誠実な対応に留意している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者は人生の先輩であるという考え方を職員が共有しており、普段から利用者に教えてもらう場面を多くもてるようにセッティングや工夫や声かけに配慮している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・家族、本人の思いや状況を見極めながら、行事には家族の方に参加していただいたり、誕生会には、その方の家族と一緒に会食していただいている。外泊、外出で家族と過ごされる機会を持ってもらっている。絵手紙で近況を報告していただく事もある。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・地域に暮らす馴染みの知人・友人の方がホームに遊びに来られたりされ、関係が途切れないよう、支援に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・サービスの利用が終了された方も行事に招待したり、遊びに来てもらう等継続的な付き合いができるように心掛けている。また、家族からの相談にのっている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの方と日々よく話し、言葉や表情、行動から何をどうされたいかを把握するよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前に、自宅に訪問したり、ご本人やご家族、関係者などから地域の中でどのように過ごされてきたか、友人がおられたかを聴き取り本人の全体像を知るよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・今までの生活歴やライフスタイルをよく聞き、1日の暮らし方や生活のリズムを把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・家族より、相談、希望、苦情を聞き計画を立てている。家族の面会時や家族会で意見を伺ったり、電話での報告、相談もある。スタッフで意見を出し合い作成している。	○	・評価を密にして、その人にあわせた課題をみつけ介護計画を作成する。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・実施期間にそって計画を見直し、職員の気づき、意見を活かして、状態を把握している。月に1回大きなミーティングしているが、毎日1回一時間、必ずミーティングしている。	○	・安定した利用者でも、新鮮な目で本人や家族の今の要望を取り入れたいと思っている。介護計画の期間を短くし、評価を検討する機会を多くする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・昨年の外部評価の指導を参考にし、書式をかえて個別の記録の簡素化を図った。	○	・実践に基づき記録、介護計画を学びたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。体験入所を行っている。家族の宿泊も受け入れている。本人、家族の希望により退院後の医療処置を受けながらの生活の継続を支援し、訪問介護、訪問看護の指定もとったので、活かしていきたい。	○	・自宅で暮らす認知症の方のデイサービスやショートステイ等検討したい。自宅での生活が限界になった時のホームへの入居の緩やかな支援をしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・2ヵ月に1回、運営推進会議を開催し、市町村職員、民生委員や町内会長、社会福祉協議会等、参加して頂き意見交換する機会を設けている。H20.1にスプリンクラーを設置した。消防署よりの消防訓練を受けたり、ボランティアの方の協力を呼びかけている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・社会福祉協議会のケアマネージャーに相談し、補装具の購入や退去後の自宅での生活等の助言をもらっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・要支援2の方の入居時、ホームで指導を受け支援につなげた。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・主治医はホームの関係者であり、常時連絡を取る事ができ、往診にも見えている。平成20年8月より、土日が休診になったが看護師とは連絡がとれることとなっている。時々九州大学病院の医師が診察にみえている。家族の希望により、大病院での受診も主治医の紹介でしている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・主治医が入居前よりの主治医である方が多く、病歴、生活歴がわかり、認知症についても、発見、進行の度合いがわかりやすく、主治医の助言、指示をもらっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・看護職員を配置しており、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院中の病状の説明や、今後の治療について、医療機関より詳しく説明を受ける事が出来ている。また家族とも情報交換しながら、回復状況等、速やかな退院支援に結びつけている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・家族、医師、看護師、職員で話し合いを行い、本人、家族の安心と納得を得られるように努めている。日常の健康管理や急変時の対応ができるよう方針の統一を図っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・家族と話し合い入居者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。急変があった場合は、すぐに家族、主治医に報告し、対応している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・利用者の環境の変化によるダメージが少ないよう馴染みの職員が訪問したりして、不安を少なくしている。移られた場合、これまでの生活状況、支援の内容、注意点等、情報提供をし連携を心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・職員はプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしていない。ミーティングで入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応について話し合っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>・一人ひとりの食べたいメニューやレクリエーションの参加等、一人ひとりの希望を尋ねたり、表情で読みとったりして本人が決める場面をつくっている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・基本的な1日の流れは決まっているが、一人ひとりの状態や思いを配慮しながら、ドライブ、散歩、レクリエーション等、柔軟に対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>・着替えは、基本的に本人の意向で決めており、各居室に鏡付き床頭台を置き、整髪や着衣の整えに利用されている。理容・美容は希望があれば、理美容院で行うように対応している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・食材の買出しに入居者も同行し、魚等希望の品を買い野菜切り、魚づくり、味付け等の調理も職員と一緒にされる。季節の山菜(ツワ、フキ等)をとりも楽しみにされていて皆で皮むきをし調理されている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>・職員は一人ひとりの嗜好物を理解しており、本人の様子や時間をみながら、楽しめるように支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・個人ライフチャートを記入し、排泄パターンを把握している。排泄の時間をみはかって誘導する方もいる。オムツの使用をできるだけ少なくして下着に尿とりパットの使用の方もいる。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴の回数、時間帯等、一人ひとりの希望や状態により入浴を行っている。夏場はシャワー2回にしたり、夜に入浴される事もある。一人ずつの入浴だが、友人と一緒に希望される方もおられる。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握しており、日中、散歩、ドライブ、入浴、調理等で体を動かされ良眠されるよう配慮している。また体調や希望を把握しゆっくり休息をとられるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・料理、野菜作り、魚作り等、得意分野で一人ひとりの力を発揮される場面を作っている。園芸、庭の草とり、梅干作り等、得意分野で活躍されている。ドライブ、散歩を支援し地域の行事等も参加され楽しまれている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・家族の方は、本人に少額の小遣いを渡されている。自分で買い物をし、サイフよりお金を出し支払われている。小遣い帳、記入されている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・歩行困難な方でも、車や車イスを利用し戸外へ出られる事を支援している。希望ある時は、外食にも出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・遠くの場所に行く時は、あらかじめ計画を立て職員の勤務を調整して外出している。場合によっては家族の協力をお願いする事もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族に電話をされる方がおり、使用は職員の許可を得て、自由にされている。暑中見舞いハガキを手作りし、家族に出している。家族、友人、知人からも電話が気軽にかけられるような雰囲気づくりに努めている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・家族の方は、気軽に面会に来れると言われ、自由に出入りされている。入居者、職員とお茶の時間を一緒にしたり、歌と一緒に歌われたりして下さる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束は行ってはいけないと全職員は認識している。身体拘束が必要ある時は、緊急やむを得ない事を説明する。マニュアルを作って、十分説明し同意書を受けるようにしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中施錠せず、夜間は施錠している。ホーム周囲に散歩や野菜、花の手入れに出られる時は職員が見守りを行い、自由な暮らしを支援している。近隣の方も、一人で出かけられるのを見られた場合、知らせて下さっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員は入居者と同じ空間で記録等の作業を行いながら、全員の状況を把握するように努めている。夜間は1時間ごとに入居者の様子を確認し、24時間利用者の安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・洗剤、刃物等は収納箱を作って、保管場所に収納している。薬も個別に収納し、服薬時に出し管理を十分にしている。手、指消毒は、利用者に注意を促し見守りながら使用していただいている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。誤嚥のリスクの高い方の食事支援や服薬の方法、転倒防止について検討している。ヒヤリハット、事故報告書を作成し家族へ説明と報告を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・職員は、心肺蘇生法の研修にいき、ホーム内でも消防署の指導により訓練を行った。	○	・今後も継続して訓練を行い、講師を招き応急手当の勉強会をひらきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・消防署の協力を経て避難訓練を定期的に行っている。万が一、火災があった場合は近隣の方にも連絡し協力してもらえる体制をとっている。万が一の火災に備えスプリンクラーをH20、1月に設置した。火災報知機等にも定期的に検査を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・転倒、誤嚥等の危険の予測について家族に説明し相談している。安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するよう職員全て注意している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・朝夕、バイタルチェックを行なっている。食欲、顔色、様子の変化に注意を払い、変化時は主治医に連絡している。状況により大病院受診にもつなげている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・入居者の病名や薬の目的、副作用を知り、主治医の指示によって服薬の支援を行い、服薬チェック表を作成している。異常がある時は、主治医に早急に連絡している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・便秘予防に配慮した、繊維質の多い食材やメニューの工夫をしている。散歩、居室の掃除、草取り等、体を動かす機会を多くしている。下剤に頼らず自然排便ができるよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎朝の洗面時、昼食後、夕食後は口腔ケアを実施している。義歯は就寝前、ホリデントにつけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人ひとりの栄養摂取量や水分量を大まかに把握している。Am10:00,pm3:00,pm7:00の水分摂取以外、入浴後、外出後も水分補給をしている。食事量、残食量を記録し利用者の栄養改善を検討している。	○	・地域の栄養士や地域包括支援センターの保健師等に専門的アドバイスを受けたいと思っている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症の知識や処置については、看護師より予防や対応の取り決めの指導を受けている。まな板、食器、浴室、トイレの消毒はもちろん、入居者、職員共に手洗い消毒している。佐世保市の保健師にノロウイルス対策について指導を受け手洗い後はペーパータオル使用をしている。利用者、職員共にインフルエンザの予防接種を受けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・まな板やふきん等は、毎回消毒し清潔を心がけている。食材の残りは鮮度や状態を確認し、冷凍したり処分したりしている。魚料理多く、新鮮な食材を朝、調達している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関は施錠せず、中庭からも出入りしやすいようにしている。周囲には、生垣、草花、野菜を植え家庭的な雰囲気をつくり庭先でも話が出来るようベンチを置いている。玄関先に花をむけたり、利用者の作品(壁画等)を展示し、柔らかな雰囲気づくりの工夫をしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室、居間には、遮光カーテンを使用し、テレビの音量にも注意している。作品や草花で季節を感じるよう工夫し、山菜(摘んできた)料理やかしわ餅等、季節に合った料理で自宅の延長を感じていただいている。又、季節の行事を取り入れ入居者の方が楽しく過ごされるよう配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・玄関、サンルーム、居間、中庭に椅子やテーブルを置き、一人で過ごしたり、気の合った利用者同士でくつろげるスペースを作っている。居室やサンルームで仲良く話される事多い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室には自宅で使われていた、馴染みのタンス、テレビ等を置かれている。寝具も各自持参され、自宅で常に使用されていた布団を使用されている。家族の写真や手作りのカレンダー等もあり、落ち着かれる居室づくりの配慮をしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・換気には絶えず注意をし、窓、戸の開閉に気をつけ入居者に合った温度調節をしている。トイレは換気扇をつけ、各所に花を飾りホーム内の臭いに注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホーム内、外にスロープ、手すりの設置、バリアフリーの建物で移動時の安全や自立を意識した工夫をしている。物干しの高さや庭に出られる通路等、安全確保に留意している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・居室の入口には、名札、生まれ年の干支の絵を貼っている。トイレ、浴室、洗面台も手作りの絵で表示し、わかりやすい工夫をしている。歯磨きも絵を貼り自立を促している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・敷地内の空き地を耕し、菜園、花園を作り、入居者の方が花、野菜を植えられ、水やり、草取り等、楽しみながら手入れもされている。庭のベンチで景色を楽しめたり、サンルームでくつろがれたりされるよう配慮している。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
		○	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)